

松本オフィス通信

- 日本福祉大学 松本オフィス -

- 学生奮戦記！ 1
- オープンキャンパス & 大学祭 1
- キャリア相談会開催 2
- 私の仕事 -飯山学園- 2
- 経済学部の活動 2
- 高校訪問 3
- 教員リレーエッセイ 3
- 豊科近代美術館 4
- インフォメーション 4

県出身の学生奮戦記！

社会福祉学部 社会福祉学科 4年 飯沼 徹

「何でもあり」…何でもこい！



社会福祉士国家試験に向けて、仲間と一緒に勉強中！

4年生の今、私の学生生活の大部分を占めているのが、ゼミナールでの活動です。私が所属している原田ゼミは、地域福祉を中心に研究するゼミです。地域福祉とは、子どもや障害者、高齢者といった福祉の分野を限定せず、その

地域に住んでいる人全てを対象とし、地域に住んでいる人が住みやすい街になるためには、どうすれば良いのだろうかというのを考える「何でもあり」な福祉分野のことです。

「何でもあり」な地域福祉を研究するゼミなので、私のゼミには様々な視点を持った学生が集まっています。子どもの貧困に興味を持った学生やホームレス支援に興味のある学生、施設職員の働き方に疑問を持っている学生など一人ひとりが自分の福祉観を持っていて、ゼミの時間は、自分の福祉観に基づいて主張しながら、相手の福祉観を学ぶ有意義な時間となつていきます。自分の福祉の中に、新しい視点を増やし、更に発展させていくことができるゼミです。

このゼミでの活動は、就職活動でも存分に活かすことができました。就職活動では、グループディスカッションという、与え

られたテーマを集団で討論して答えを出す課題があります。私は、就職活動中に何度もこの課題に当たりました。自分が得意とする福祉分野の課題が出たり、実際に売っている商品やイベントの売り上げ、集客数を伸ばすためにはといった少々難しい課題が出たりしましたが、ゼミでの経験を活かし、自分の考えを言うだけではなく、相手の考えを聞き、与えられた課題に対してもっとも有効な策は何かを考えることができました。その結果、内定を得ることができました。

今後は、ゼミ活動で得た経験とスキルをより一層活かしていきたいと思えます。社会に出たら大学までとは違って、いろいろな人がもつと様々な意見を持っているので、自分の意見を述べつつ、相手の意見も取り入れられる柔軟性を持った社会人になりたいです。

(下諏訪向陽高校出身)

大学生生活でなくてはならないもの 子ども発達学部 心理臨床学科 3年 寺島 ゆづき

日本福祉大学にはいくつかの県人会があります。中でも長野県人会は最も規模が大きく、活動も新入生歓迎会、焼き肉会、大学祭への参加、4年生とのお別れ会など様々な企画があります。

今年は今までにない企画をしてみようということで、九州人会との交流会も行いました。初めての試みでしたが、友人関係が広がるのはもちろん、他の地域のことを聞き、地域差を知ることによって長野県ことを改めて知るきっかけにもなりました。(もつ鍋？VSとん汁?)

私は1年生の頃から運営委員として活動してきた(ほんのお手伝い程度でした)、今年ついに会長という立場に立たせて頂くことになりました。今まで見てきた歴代の会長や先輩方はピシッとしていて、それでいて後輩から慕われているので

きな(ホントです)方ばかりだったので、私と同じ立場になることがとても不安でした。

先輩たちのようになれるか悩みながら活動してきましたが、企画を進めていくうちに少しずつ自分が変わってきた気がします。たとえば後輩に、やってほしいことを明確に示すこと、自分が一番先に積極的に動くことが出来るようになってきたことなど。

今年の大学祭の模擬店の準備も大変でしたが、成功させたあと2年生の後輩から「自分たちが楽しく準備できたのは会長がいろいろなところでがんばってくれたからです」と言ってもらえて、会長をしてよかった、がんばってよかったと心から思いました。上に立つことが苦手だった私が少し成長できたのは県人会に入り、先輩や後輩、友達の協力を得て会長として活動してきたおかげです。

県人会に入ったことで友達が増え、勉強や就職など様々なことについてアドバ



県人会の仲間と一緒に！

伊那市・辰野高校のご出身)には本当にお世話になっていて、感謝しきれません。私が会長として仕事をすることもあと少しですが、より楽しい場になるよう力を尽くしたいと思います。私にとつて大学でなくてはならないものとなった県人会を、次の代のみなさんにもぜひ楽しんで参加してもらいたいと思います。

(美須ヶ丘高校出身)

オープンキャンパス & 大学祭

11月6、7日の両日、美浜キャンパスでは第58回の大学祭が開かれ、松本オフィスでは「オープンキャンパス・バスツアー」を企画。北は白馬村から、東は軽井沢、南は阿智村まで、全県から43名の高校生と保護者の方たちが参加。バスの中では大学が立地する知多半島の歴史や経済、地理も学び、キャンパス到着後はさまざまな行事や学部企画に参加しました。福祉大の「給付奨学金制度」に関する生徒は、「ぜひ実現したいです。弟が高2ですから」でまず相談コーナーへ。

この日は学生長野県人会も、宮田村のリンゴの即売と恒例のトシ汁の模擬店を出していました。が、あまりに売れ行き好調で、高校生が「招待券を持って訪ねて行ったところ、既に完売して閉店！」(また午後2時前なのに！)隣の九州人会も完売。

今回のオープンキャンパスでは、長野出身の学生(リーダー大坪君・諏訪二葉高校、藤森さん・美須ヶ丘高校+長野県人会)が学部別のツアーグループを構成して丁寧に質問に答えるなど、さまざまな工夫が凝らされました。

高校生の持っている疑問や不安に対して、大学の公式?の説明もさることながら、学び生活している学生の目線からの、経験者として具体的なアドバイスをとても参考に。なった。このことと。でした。来年は、「後輩」をよく。



学生目線でご案内！ キャンパスツアー(橙シャツ在学)

12月4日 北信越地域のキャリア相談会開催

長野県では三人の現職OBがアドバイザーとして出席したほか、二人の就職予定学生が参加して、三〇名近い学生の進路相談に臨みました。

OBメンバーは佐久総合病院の医療相談室長・杉田義夫さん、伊那市社会福祉協議会職員の伊藤直哉さん、ながの障害者生活支援協会の指導員・小島圭さん。学生は社会福祉学部四年で、長野県社会福祉事業団に内定している赤羽志保さん(社会福祉学部・湯原ゼミ)と生活協同組合コープなごの内に定している飯沼徹君(同・原田ゼミ)。

相談会では、まずキャリア開発課から、今年の県内求人動向の全体的な説明があり、これを受けて、健康科学部職員の長田さん(上田市出身)が、企業名を挙げながら特徴を説明し、エントリーはじめ、具体的な就職活動の展開をアドバイス。

これを受けて、OBと学生が個別相談に。「公務員試験の準備をしながら、児童分野の社会福祉法人へも対応していきたいのですが、絞った方が良いでしょうか?」「医療ソーシャルワーカーを目指していますが、公立病院か医療法人か迷っています。分野を絞られないまま、社会福祉協議会にチャレンジするのは?」等々、就活最前線の学生たちはかなり緊張していましたが、「考えていた病院などの具体的な情報が得られて、本気度が高くなった」、「一人きりで考えているとめげるけど、こういう機会があると、自分一人じゃないと、気持ちがあ楽になった」など、参加して良かった、という声が多く聞かれました。

長野県には各分野に三〇名をこえる就職アドバイザーがいます。冬休みから春休みにかけて、キャリア開発課、同窓会事務局、松本オフィスなど、どこかでOB就職アドバイザーとの連絡・相談の機会を増やしましょう。



杉田さんと相談

私の仕事 ~卒業生から~ 何を言ったか、ではなく、なぜそれを言ったのか



春には学園の前面が、菜の花で埋めつくされます。

児童養護施設 飯山学園

児童指導員 阿藤 創造

私が日本福祉大学を卒業後、児童養護施設に勤務して7年が経とうとしています。児童養護施設は様々な理由で親と一緒に生活できない、概ね18歳までの子どもたちが入所し、食事や宿題、お風呂などの生活を支援する施設です。児童相談所と話し合いをしたり、子どもの進路の相談などにも乗り、保護者の代わりもします。

様々な事情から簡単には職員や先生と信頼関係を築けなかったり、反社会的行動をしようとする子もいます。喧嘩をしてみました子を連れて相手のお宅に謝りに行くこともあれば、迷惑を被った方から叱られることもあり、胃が痛くなることもたまにあります。

しかし、だからと言って、子どもと向き合って話こそすれ、「何でそんなことをするんだ!」などと言うようなことはしません。

大学3年当時の実習指導の先生が、「その人が何を言ったか、何をしたかではなく、なぜそれを言ったのか、なぜそれをしたのかを考えなさい」という言葉を胸に、その都度時間をかけて話をすることを心がけています。

私が新人のころ、毎日のように喧嘩やいたずらをして、私の胃を痛めてくれた子が今や中学生です。その子とちよつとした会話から、「そう言えば昔はそんなこともあったなあ。でも阿藤ちゃんに悪いからもうしないよお。」なんて言葉が出たときは笑ってしまいました。まだハラハラする時もありますが、凛々しく優しい子になりつつあります。彼の成長に負けないよう、私の胃も成長しなければ!



学園のみんなでキャンプへ。右:阿藤さん

(社会福祉学部 社会福祉学科H15年度卒)

“友好のリンゴ”を収穫

宮田村



収穫する辰野町出身の赤羽君(左)と原田先生(右)

11月14日、宮田村のリンゴの収穫祭に、経済学部の西村ゼミ、原田ゼミ、渡邊ゼミの学生たちが参加しました。メインの行事は宮田村友好協会から本学に贈られた「友好のリンゴの木」を清水農園で収穫。これまでは留学生を対象にしたものを本年度から日本人学生にも拡大し、その代表として、経済学部の3ゼミの学生たちが参加しました。これまで、村のリンゴ栽培農家・樋屋さんの協力を得て、自分たちが栽培したサツマイモを合わせて「リンゴ・いもパン」をプロデュースしてきましたが、さらに本格的にリンゴの可能性を探ろうと、村を訪れたもの。

「引つ張っちゃだめ」、「上にひねるようにやさしく」と清水さんご夫妻の丁寧な指導を受けて、400個のリンゴを無事収穫。

宮田村、辰野町出身の学生を除いて収穫作業は初体験。今年の春は、四月に雪があつたり、なかなか花が咲かず、気を揉んだこと、自然条件に加えて、価格が低迷していること等、農業をめぐる厳しい環境も学びながら、ずつしりと重く、爽やかな甘いリンゴの香りとともに美浜に戻りました。

またこの日、リンゴ収穫祭の会場となつたふれあい広場では、学生たちが美浜の農家の支援を得て栽培した蜜柑も販売。やや酸味が強く、「昔の蜜柑の味だなあ」という声も聞きながら。実は、この酸味の強いミカンをジャム風にして、ホイップクリームパンも試作しているとか。学生たちの試行が広がっています。



経済学部・生協・宮田村のコラボによる手作りパン。右:芋入りアップルパイ

こうしたフィールド学習は、新しい経済活動カリキュラム改革の一部を構成しています。新しい経済学部では、4つのコースをこえて、構造的な地域研究プロジェクト「I、II、III」がとりこまれます。

11月13日(土)子育て支援講座が開かれました。

宮田村教育委員会主催の子育て支援講座が開かれ、子ども発達学部石川達也教授が講演を行いました。(詳細は次号で紹介いたします。)



今年、大学のサツマイモ、美浜町のミカン、宮田村のリンゴを使用した、オリジナルパン4種類を作り、販売しました。

あなたの街の高校訪問 「もう、折れない」 - 注目の放送部あり！ 松本筑摩高校 -



左は部長の小池さん、その右は筒井さん、新人の中田さん、顧問の林先生(松本筑摩高校書道室にて)

松本筑摩高校は、定時制、通信制の高校です。働きながら学んでいる人やさまざまな事情で全日制の高校から転校してきた人たちも通っています。

この松本筑摩高校の放送部が、いま、県内だけでなく全国的にも注目を集めています。三年前に放送部が誕生し、二〇〇九年のNHK杯全国放送コンテスト(Nコン)では、全四部門のうち、テレビドキュメンタリーとラジオドキュメンタリーの両部門でなんと準優勝。快挙というほかにありません。

テレビ部門の作品は「スマイルメーカー」。地元で写真店を営み、この地域の小、中、高七〇校余りから支持され、卒業アルバムを生徒写真を撮り続けている、写真家・川澄陽一さんの活動。その思いを映像に表現した作品です。

アルバムに載せられた生徒の個人写真は、どれも笑顔。一人ひとりの子どもたちが必ず持つにすぎない表情を、写真で表現しようとする川澄さんの姿勢に共感する放送部員の思いが、映像から伝わってきます。

その思いとは、学校生活のなかのさまざまな辛さや苦しさから、自分というものがわからなくなったり、不安や徒労感、絶望感に陥ったりしてきた過去を見つめ直そうとする、自分への振り返りであり、一人ひとりの生徒のなかにある、かけがえない個性を引き出し、写真として残そうとする写真家・川澄陽一さんの表現者としての姿勢への共感なのです。また川澄さんのこの姿勢は、写真家として、心、精神のうごきを写真に表現したいという、写真家・川澄陽一さんのモチーフにつながっていることを、この作品は踏み込んでいます。このドキュメンタリーは、放送部から視聴者への、たいへんメッセージ性の強い作品となっています。準備は、部員たちの高校生活への問い直しの深さと、表現者としての鋭さに対する支持ともいえます。

通信制の生徒は、日曜日、月曜日が高校でのスクーリング。?????。わかります

グ、面接授業。他の曜日は自宅学習です。だから、通学に交通機関を利用する場合、ふつう、回数券を使うのです。しかし部員たちは放送部の活動を始めて、登校日が三日、四日と増え続け、ついに定期券に。「たぶん、全国の通信生で、定期券を持つているのは私たちだけじゃないでしょうか」と放送部の部長の小池優理子さんは語っています。

作品の主人公は、放送部の一年先輩の百瀬さん。二度の「不登校」を経験し、松本筑摩高校に転校してきて放送部に出会い、その「表現」活動を通して、自分を見つめ、現代社会における人の生き方を見つめ直すことを通じて、「不登校」を克服してきた百瀬さんの日々を追っています。

松本筑摩高校の場合、通信制で学ぶ生徒の6割が過去に不登校を経験してきているといわれています。この作品は、先のテレビ部門の作品とも深くつながっていますが、映像によらず、音声だけで、学校がいま抱える最も深刻な問題の一つを表現するのは、なみなみならぬ力量が求められます。

その力量は、この作品を主として担当した筒井沙織さん、そして小池さんたちが苦しい体験を克服しようとしてきたことで形成されてきたものです。

「準優勝」は、テーマ性や技術性とともに、定時制、通信制高校における生徒の重い足取りを追いながら、自らの成長と自己変革の歩みを表現した作品として高く評価されたからでしょう。

クラブの顧問は書道を教える林直哉先生です。「放送部の作品は生徒同士の、そして生徒と顧問の共同制作です」と語る先生は、生徒自身が不登校などの体験を、言語化することで克服の道筋が自分づかめるようになる、と言います。「番組制作は、だから心のリハビリ」、不登校を克服する「基礎体力づくり」だとも。だから、番組制作の現場ではかなり厳しいやり取りが続きます。

でも「だからこそ共同なんです。先生が仕上げる、逆に生徒だけでやって顧問は手を出さない、放つておく、ではダメなんです。放送部の作品は、この共同性が高まらないといけない」と語る先生の書道教室の一角では、もう次の新たな作品づくりが始まっています。

放送部員は、学校生活のなかのさまざまな辛さや苦しさから、自分というものがわからなくなったり、不安や徒労感、絶望感に陥ったりしてきた過去を見つめ直そうとする、自分への振り返りであり、一人ひとりの生徒のなかにある、かけがえない個性を引き出し、写真として残そうとする写真家・川澄陽一さんの表現者としての姿勢への共感なのです。また川澄さんのこの姿勢は、写真家として、心、精神のうごきを写真に表現したいという、写真家・川澄陽一さんのモチーフにつながっていることを、この作品は踏み込んでいます。このドキュメンタリーは、放送部から視聴者への、たいへんメッセージ性の強い作品となっています。準備は、部員たちの高校生活への問い直しの深さと、表現者としての鋭さに対する支持ともいえます。

通信制の生徒は、日曜日、月曜日が高校でのスクーリング。?????。わかります



放送部の作品集。作品を視聴したい方は、日本福祉大学松本オフィスまたは、松本筑摩高校放送部まで。

教員ルーエッセイ

こうした哀れな事実を前にして、われわれが、

はらだ ただなお
愛知原生。専門は現代中国経済論。フィールドワークではいつも学生とともに最前線へ。原田先生の勇姿は、P2の右下の写真。

“気化する社会”のなかであなたは

われわれが、すでに片足を踏み入れている社会とは、「気化社会」にほかならない。溶け出した液体が、乾燥した空気に触れて、じわじわと気化していくように、われわれの社会そのものも気化されつつある。そして、この気化は、まずもつてわれわれ人間から始まっている。

アパートの一室で、誰にも気づかれないことなく、腐乱して人々。彼らの肉体は、部屋の空気へと悪臭を放ちながら転化していく、その様は、まさに、われわれの明日である。もちろん、孤独死を前に、自らの命を絶つ決心をする人々も多数存在している。孤独死や自殺者の存在は、惨めな将来をわれわれが描き出すには十分であり、社会が気化していることを如実に物語っている。

正直、大学で、こんなことを考えることになるのは、思わなかったが、その出口としてしばらくは、学生をフィールド(社会)に放ち、社会のために汗水たらしてがんばっている「おじさん」や「おばさん」に教えるを学ぶ必要がある。ある。

経済学部准教授 原田 忠直

時間が決して止まらないように、社会も必ず、動き続けている。Z. バウマンの指摘に従えば、社会は、ソリッドしたものからリキッドしたものへと移り変わっている。

そして、こうした動きを認めることは、同時に、われわれが、次なる社会の到来の必然性を受け入れなければならないことを意味している。次なる社会とはいかなる社会であるのか。

実は、すでにリキッドモダニティの時代は終わったのではないかと予感せざるを得ない出来事が社会の隅々で生じている。

われわれが、すでに片足を踏み入れている社会とは、「気化社会」にほかならない。溶け出した液体が、乾燥した空気に触れて、じわじわと気化していくように、われわれの社会そのものも気化されつつある。そして、この気化は、まずもつてわれわれ人間から始まっている。

正直、大学で、こんなことを考えることになるのは、思わなかったが、その出口としてしばらくは、学生をフィールド(社会)に放ち、社会のために汗水たらしてがんばっている「おじさん」や「おばさん」に教えるを学ぶ必要がある。ある。



美術館と「ふくし」～安曇野からのメッセージ～

豊科近代美術館



豊科近代美術館（吉田泰館長）は、広い前庭とバラ園に囲まれ、石造りの外壁とアーチが特徴の雰囲気を持つ美術館です。設計にあたってはヨーロッパ中世の修道院をイメージしたもので、いまの季節では遠く雪の常念岳を望んで、安曇野の中心部に落ちついたたたずまいを見せています。

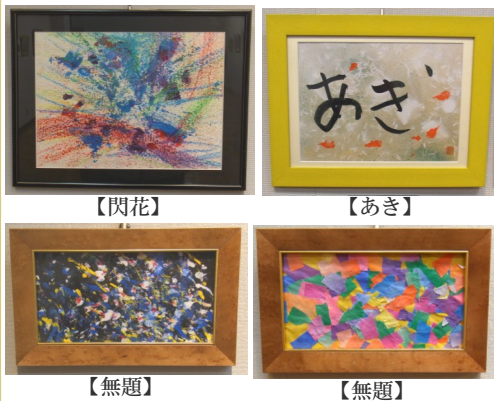
この豊科近代美術館では11月中旬、同館と松本の知的障害者施設「四賀アイ・アイ」の共催により、四賀アイ・アイの利用者の方たちの絵画制作グループ（かりんグループ）の作品が展示されました。「かりん展」はとくに重度の障害の方たちの表現作品です。四賀アイ・アイは、この「オフィス通信」でもたびたび取り上げてきましたが、松本市の郊外、旧四賀村にあつて、現在50名の方たちが利用されています。表現活動は施設の創立以来取り組まれてきたもので、十月松本駅で開いた「社会福祉施設のアー&クラフト展」でも注目されてきました。

もともとは、四賀アイ・アイの独自企画で毎年作品が展示されていたのですが、二〇〇八年からは、共催という現在の形式に移ったとのこと。

同館学芸員の澤田龍太郎さんは、アイ・アイの作品の水準が高く、美術館として、十分共催に値するものだという

「オフィス通信」でもたびたび取り上げてきましたが、松本市の郊外、旧四賀村にあつて、現在50名の方たちが利用されています。表現活動は施設の創立以来取り組まれてきたもので、十月松本駅で開いた「社会福祉施設のアー&クラフト展」でも注目されてきました。

かりん展で展示された作品（一部）



【閃花】

【あき】

【無題】

【無題】

【豊科近代美術館】
長野県安曇野市豊科56609-3
電話:0263-73-16988
<http://www.nfdn.ne.jp/~art-toyo/>

2011年度 ～入試インフォメーション～

◆一般入学試験のご案内

	前期日程	後期日程
書類出願期間 (消印有効)	【郵送】 1月4日(火)～27日(木) 【窓口】 1月28日(金)	【郵送】 2月15日(火)～3月3日(木) 【窓口】 3月4日(金)
試験日	2月3日(木)・4日(金)・5日(土)	3月9日(水)
合格発表	2月14日(月)	3月16日(水)

◆大学入試センター試験利用入学試験のご案内

	前期日程	後期日程
書類出願期間 (消印有効)	《全学部出願型》 1月4日(火)～14日(金) 《5教科・3教科・2教科》 【郵送】 1月4日(火)～31日(月) 【窓口】 2月1日(火)	《3教科》 【郵送】 2月15日(火)～ 3月3日(木) 【窓口】 3月4日(金)
合格発表	2月14日(月)	3月16日(水)

■入学試験の内容については、再度「受験ガイド2011」・「入学試験要項」で必ずご確認下さい。

◆通信教育部のご案内

2011年度 通信教育部の第1期の出願が、12月1日(水)から始まっています。出願開始に伴い、長野市で通信教育部入学説明会が開催されます。

要項は取り寄せただけ願書の書き方がわからない、勉強の進め方が不安、資格を取得したいと考えているけれど、どうすればいいかわからない等、通信教育部に関して疑問や質問にお応えいたしますので、お気軽にご参加下さい。

【長野市会場】

●日時:2011年 1月15日(土) 14:00～16:00

●場所:JA長野県ビル2F

事前予約は必要ありませんので、時間までに会場にお集まり下さい。詳しくは、通信教育部HPをご覧ください。

<http://www.nfu.ne.jp/>

◆進路相談について

第一志望ではないけれど大学の話を聞いてみたい…
自分にあった入学試験方法はどれだろう…
学費や経済的なことが不安… etc

大学に関して疑問や悩みがある方は、個別にご相談に応じます。まずは、お気軽に松本オフィスまでご連絡下さい。



日本福祉大学 松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-2-1 ミヤノオビル5階
TEL (0263)31-9011 / FAX (0263)32-8018
E-mail e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp
<http://blog.n-fukushi.ac.jp/bc-matsumoto/>

携帯電話から、松本オフィスブログを読むことができるようになりました。今後も情報を発信していきますので、ぜひアクセスを！
(モバイル版QRコード→)



日本福祉大学HP <http://www.n-fukushi.ac.jp/>